

2024 年度「海外語学実習(スペイン語)」 参加レポート

音楽学部 音楽芸術学科 3年

この研修で私が得た「今後の人生をより豊かに過ごすためのヒント」を順に紹介します。

ヒント1:コミュニケーションは「きく」が優先

“コミュニケーション能力が高い”というと、人見知りせず、話し上手で、饒舌なプレゼンテーションができるような人を想像するのではないのでしょうか。もちろんそれらも間違いではなく、どれも重要なスキルです。

しかし、私がスペインで出会った“コミュニケーション能力が高い”人たちは共通してある行動をしています。

それは「きく」ことです。傾聴の「聴く」、会話の中で相手に質問を投げかける「訊く」、会話のテーマを提示したあとは聞き役に徹する「聞く」、ざっとこの3種類があります。意外にも、話し上手より聞き上手のまわりに人が集まるのです。

母語でない言語で会話をするとなると、どうしても自分の一人語りになりがちです。現地に到着して間もない頃の私がそのいい例です。語彙の少なさとリスニングへの不安から、脳内台本を読み上げるような独りよがりの会話を繰り返してしまいます。「私は日本人で～、大学生で～、趣味は～」といった具合に、頼まれてもない自己紹介が自動的に再生される状態です。スペイン語を口に出すという面ではクリアできていますが、これでは相手との会話のキャッチボールは成立しません。そこで私は、言語能力に自信がなくともまずは目を合わせて相手の言葉に耳を傾けることから始めるべきだと考えました。

単語の意味がわからなくても、相手の瞳と口、そこから発せられる音に全ての神経を集中させると、その意図が伝わってくる瞬間が“まれに”あります。心が折れそうになりますが、この「今理解できたかもしれない」の繰り返しで私はスペイン語を上達させました。

「きく」ことの重要性は、言語学習にとどまらず、あらゆる相手とのコミュニケーションでその真価を発揮するはずです。

ヒント2: やらない後悔よりやった後悔

この言葉は、初めての留学、初めての1人搭乗、初めての長期外出(実家から5日以上出たことがなかった)と多くの不安を抱えて渡航した私にとって、たくさんの重要な選択を後押ししてくれた言葉です。言葉の意味は文字通りそのままなので、実際に私がどんな選択をしたのか紹介します。

・友人からの誘いは迷ったら“Sí”(肯定)

→英語圏の留学生たち(ドイツ、ポーランド、イギリス、アイルランド)から夕食に誘われたのですが、自身の英語力に不安があり、断るかどうか悩んでいました。加えてアジア人は私だけだったため、拙い英語では輪に入れないのではないかと懸念していました。しかし、会話が成立しなかったとしてもそれはそれで苦い経験の一つとしてアリだろう！と考えました。そしてディナーは大盛り上がり、私の名前もしっかり覚えてもらうことができました。

・初日の授業で歌を披露

→インパクトのある自己紹介をしたいと思い、スペイン語の歌を披露することを思いました。幸いにも音楽は得意であり、声楽を習っているため歌唱力には自信がありました。実行に移すまでの緊張と、その後の展開(教室の雰囲気やクラスメイトからの視線)を想像して喉から心臓が出そうでしたが、開き直って何も考えず歌ってみたら大成功でした。

・授業中の質問と発言

→私は元から授業中に遠慮なく質問をするタイプの学生です。しかし、外国語となると話は別で、「もしも質問の意図が伝わらなかったら」「もしもさっき説明していた内容だったら」「自分が聞き取れていないだけだった可能性」と頭の中で検討を重ねてしまいます。でも考えてみれば、私はスペイン語を勉強しにきているので恥じることも謝ることもありません。

それに質問は「私は理解していませんよ」＝ペースを落としてほしい、私の様子を見て進めてほしいという意思表示も兼ねていると考えました。その発想を得てからは、質問も発言も恐れなくなりました。

・勇気を出して声をかけるも人違い

→「やらない後悔より…」と勢いに任せるともちろんこういうことも起きます・

私がスペインで経験した「やらない後悔よりやった後悔」は数えきれないほどあります。それでも、帰国した今は全ての経験を受け入れ、自分に必要な試練だったと納得することができています。それに、「あの時チャレンジしていなければ、あんなに素晴らしい体験はできなかっただろうな」と思う事例も少なくありません。むしろチャレンジして正解だったことのほうが多い気がします。迷ったら行動する習慣を身につけたことで、私の社交性とチャレンジ精神は開花しました。

ヒント3: 日常を記録することは面白い

20歳の夏の大冒険、私はこの貴重な体験を何かの形で記録に残したいと考えました。成田空港のゲートで搭乗を待つ間、ふとひらめいたのがYouTubeを活用することでした。Vlog 動画にして毎日の記録を残そうと考えたのです。早速、搭乗前の不安な気持ちをスマホに向かって語りかけ、簡単に編集してみました。それから毎日動画を撮影しては編集し、YouTubeに投稿していきました。

映像に残したことで、私はいつでも留学生活のことを鮮明に思い出せる状態となりました。写真や文字の記録と比べて、映像は当時の情景をそのまま思い起こさせてくれるのです。

そのほかにも、Vlog 作戦の利点はいくつもあり、代表的なものでいうと次の4点です。

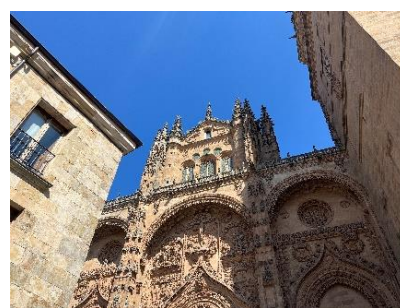
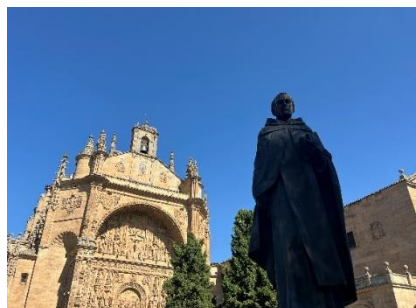
- ①家族への報告の手間が省ける
- ②友人に近況をシェアできる
- ③Vlog 撮影という口実で友人たちとたくさんの動画(インタビューなど)や写真を撮ることができる
- ④毎日投稿のネタ作りのため、積極的に出かけたイベントに参加したりするようになる

最後に、スペインで暮らしたこの1か月間は、自分の持っていた「当たり前」の感覚を根底から覆されるような刺激的な時間でした。気候、生活習慣、国民性、目に映る景色の何もかもが新鮮で驚きの連続でした。そして、その魅力に心を奪われ、帰国が惜しくなったほどです。

正直、渡航前のスペイン語学習は不十分だったと思います。楽観的な私は、基礎的な単語も身につけていないまま異国の地スペインに飛び込みました。ですが、現地の語学学校では毎日しっかりと学び、優秀な成績を収めることができました。私は言語の壁を持ち前の明るさとポジティブ思考で乗り越えました。そのうえスペイン語の能力も向上させることができたため、今回の留学は大成功だったと思います。

語学学習以外の観点でいうと、自分が圧倒的にアウェーな環境におかれたとき、どのように立ち回れるのかも知ることができました。また、あらゆる選択肢はすべて自分の糧になると、身をもって実感しました。

今回の短期研修に際し、ご理解とご協力をいただいた全ての方に心より感謝申し上げます。金銭的援助から渡航準備まであらゆる面でサポートしてくれた家族、フェリスの先生方・職員の皆さま、Vlog を視聴して感想を送ってくれた友人たち、そして現地で知り合った大切な親友たち、語学学校の先生方・クラスメイト、そのほか関係者の方々に最大限の感謝と敬意を示します。誠にありがとうございました。



以上